

# AOYAMA OIKOS NOMOS



青山学院大学経済学部同窓会会報

2001. 5.15 第3号

## 就任のご挨拶

経済学部長 <sup>よしそえ やすと</sup> 美添 泰人



### 美添泰人経済学部長 略歴

1946年 生まれ。ハーバード大学大学院修了、博士号(Ph.D.)を授与される。  
立正大学経済学部教授を経て、  
1992年 4月より青山学院大学経済学部経済学科教授として就任。  
1995年 4月より2年間情報科学研究センター副所長(青山キャンパス)を努めた。  
2001年 1月1日より青山学院大学経済学部長。

統計科学、経済統計などを専門とし、日本統計学会理事、統計数理研究所運営協議会副会長、文部省学術審議会専門委員、総務統計審議会委員、内閣府社会経済総合研究所客員主任研究官等を歴任。

卒業生の皆様にとっては周知のとおり、創立以来五十年を過ぎた今、学部は一つの転機を迎えています。相模原キャンパスへの移転を控え、また一方では若年人口の減少に伴って受験者数が減少する時期に、質の高い入学生を従来のように迎えていくためには、これまで以上の努力が要求されます。大学全体としても、相模原の新キャンパスを有効に活用するためには、カリキュラム等の根本的な再検討が必要となるでしょう。経済学部としても、学生が一、二次を過ごすキャンパスの在り方には強い関心を持っています。

最近の入試動向をはじめ、私どもの学部に対する社会的な評価を点検してみますと、近い将来の学部像には楽観を許さないものがあります。学部の当面の課題として、二部経済学部および大学院の在り方の根本的な検討があげられています。そのためには、過去数年にわたって実施してきた自己点検評価の結果に基づいて、さまざまな改革を実現していかなければなりません。当然ながら、入試制度やカリキュラムの内容に関する検討が最も重要な課題です。

このような変動の時期に経済学部長となって、早速、仕事量の多さと責任の重さを痛感しているところです。人口構成の長期的な傾向など、わが国の経済を取り巻く環境が厳しさを増す中で、社会の要求する人材を育成していくためには、われわれ教員の一層の努力が要求されているように感じます。3月の同窓会の講演の折りにもお話ししましたが、高校に入る頃まで青山学院大学のすぐ近くに住んでいたこともあり、青山学院大学は私にとっても身近な存在でした。榎本会長をはじめ先輩方のお力添えを得て、学部の発展のために微力ながらお役に立つことができばうれしく存じます。よろしくご指導下さいますよう、重ねてお願い申し上げます。



第二回経済学部同窓会講演会 ～講師 熊谷彰知経済学部長(当時)～ 2000.12.8 青山キャンパス931教室

# 平成12年度 経済学部同窓会幹事会開催す

2001.3.14

平成12年度 経済学部同窓会幹事会は去る2001年3月14日(水)午後6時より、アイビーホール青学会館2階ミルトスの間に、役員、常任幹事、幹事計69名の出席のもと開催された。

まず、榎本弘会長が挨拶。引き続き、この1月に就任された美添泰人経済学部長に、「経済と統計、昔と今」と題して講演いただいた。

ご講演は、初めに皆の関心の的になっている、相模原キャンパスについて図面を参照しながらご説明頂いた。完成は2003年3月とのこと。そして「経済と統計、昔と今」と題して専門のお話をいただいた。



## 榎本会長挨拶要旨

- \* 経済学部同窓会も立ち上げてから2年が経過し、組織づくりが出来つつあると言える。同窓会は自由で、楽しい共同体として活動していきたい。そのためには、皆様方のご協力が是非必要である。
- \* 今年から、校友会と青山学院共同で全卒業生に機関紙を発行することにした。また、4月から校友会と校友部とを一本化して「校友センター」とする。その事務所は、青学会館「おおぞらの間」に決まった。
- \* 経済学部同窓会は校友会大学部会の下部組織として位置付けられており、今後、皆様方のお知恵をお借りして発展させていきたい。



幹事会議内容は以下の通り。

### 1) 報告事項

イ. 平成12年度総会後の活動報告(石井副会長)

①第1回拡大役員会 H12.7.13

②第1回常任幹事会 H12.8.30

③第2回常任幹事会 H12.10.11

第一回講演会 H12.11.10 中川辰洋先生

「ユーロ圏の通貨、金融政策の展開」

第二回講演会 H12.12.8 熊谷彰矩先生

「地球温暖化の現実と課題」

④第3回常任幹事会 H12.11.29

⑤第4回常任幹事会 H13.2.5

⑥今後の予定:3月24日(土)午後1時、学位記授与式に、経済学部同窓会として新入会員の勧誘を行う。

ロ. 2月28日現在の収支報告(天野会計委員)

### 2) 審議事項(室伏幹事長)

始めに榎本会長より、本日は定足数171名に対して、出席者69名で1/3を超えているので、有効に成立している旨の発表があった。

①幹事の役割分担と学年幹事会、学年会議の開催について。出来れば、学年別に会合を持って欲しい。前年度会費納入者は1504名であったが、本年度は2月末現在794名である。今後、全会員の5%にもっていきたい。

②2001年3月卒業生(含む大学院)の入会勧誘について。3月24日(土)12時までウェスレーホールに集合し、790名に対して勧誘状の手渡しを行う。

③第3回年次総会の講演者について(大賀常任幹事) 前回の幹事会で承認された講演者、山口廣太先生及び講演内容について紹介等報告があった。(経営コンサルタント山口先生「日本マクドナルド大躍進の秘密(仮題)」)

④第8回大学同窓祭について(田中実行委員長) 多くのイベントを企画しているので、今年も経済学部同窓会を中心にご協力をお願いしたい。



経済学部同窓会講演会 …一つの異見…

## 「地球温暖化の現実と課題」 (要旨)

講師…熊谷彰矩経済学部長(当時)～2000.12.8

環境問題は、従来の経済学の枠を越えているが、これから大変大事な問題となる。テーマは平凡であるが、通説となっていることの問題点について、私見を交えながら地球温暖化問題について述べたい。内容は、大まかに4つ挙げられる。1つめは、地球は温暖化しているという「定説」であるが、本当にそうなのだろうかという点である。2つめは、地球温暖化の原因は、本当に炭酸ガスであるのかという点である。3つめは、我々が排出する炭素は、一体どこに行ってしまったのかという点である。4つめは、「エントロピーの増大」であり、「環境経済学」では、欠くことのできない概念である。

地球の平均気温等に関する過去のデータを詳細に見ると、地球の気温に関する歴史は、繰り返されており、急激に上昇しているわけでもない。エルニーニョ現象も自然現象の中で生じたものと考えることができ、果たして地球温暖化は、科学的に断言できない。次に、炭酸ガスと気温の因果関係は科学的に証明されているが、炭酸ガスが増えたから、気温が上昇するのではなく、気温が上昇して炭酸ガスが増える観測結果が出ている。さらに、炭素は、化石燃料が原因とされているが、大気中の自然収支の中で、膨大な炭素が移動しており、人間の出すCO<sub>2</sub>は、全体の2%に過ぎず、この炭素がどこに行ったかも明確でない。

それでは、我々が地球環境の問題に対処するには、どうしたらよいのか。従来の経済学では、生産と消費の関係を



見るだけであった。ところが、人口が増大すると、大量生産、大量消費、大量廃棄が生じ、環境を問題の視野に入れざるを得なくなり、「環境の経済学」が必要とされるようになる。環境の問題を考える際に重要となるロジックは、将来がどうなるかわからないという「不確実性」と、一度生じた問題が元に戻らないという「不可逆性」という2つの問題である。特に、不可逆性については、放置された状態の場合、熱は温度の高い方から低い方へしか流れないという「エントロピー増大の法則」が重要となる。

このように考えていくと、あやふやな仮説を立てて、論議を展開することは、疑問である。「学問の外で定説になってしまう」ということには、注意しなくてはならない。従って、貴重な資源やエネルギーの軽減、CO<sub>2</sub>の減少(省エネ、省資源)という極めて単純なことに戻ってくるのであり、環境問題へのベターな回答になる。

# INFORMATION

- ◆2000.11.29 第3回常任幹事会
- ◆2000.12.8 経済学部同窓会講演会  
青山キャンパス、大学931教室  
講師：熊谷彰矩教授「地球温暖化の現実と課題」
- ◆2001.2.5 第4回常任幹事会  
講話：石井副会長「ビートルズ・フォーエバー—その個人的、歴史的、社会的、音楽的含意をめぐって」
- ◆2001.3.14 平成12年度幹事会 69名  
アイビーホール青学会館  
講演：講師、美添泰人経済学部長「経済と統計、昔と今」  
議事：平成12年度活動報告、今後の予定、第3回年次総会など。
- ◆2001.3.24 平成12年度卒業生（院生含む）790名に、
- ◆2001.4.20 第5回常任幹事会
- ◆2001.5.15 Aoyama Oikos Nomos 第3号発行
- ◆2001.6.16 第3回総会（第2年度年次総会）  
青山キャンパス  
2:00pm～総会／講演会（大学420教室）  
講師：山口廣太氏「マクドナルド「平日半額」戦略」  
5:30pm～懇親会（青学会館）
- ◆2001.9.23 第8回大学同窓祭  
経済学部同窓会は、メインイベント「フォーラム2001」と入場券販売を担当しています。
- ◆2001.11. 経済学部同窓会講演会（予定）
- ◆2001.12. 経済学部同窓会講演会（予定）
- ◆2002.3. 経済学部同窓会講演会（予定）

同窓会への入会勧誘状を手渡す。

I部：551名、II部：235名、院：4名

## 編集後記

▶風薫る五月さわやかな季節になりました。経済学部同窓会幹事会では、新経済学部長の美添先生の相模原キャンパスへの移転に伴う理工系と文系とが一緒になること、ご専門の経済統計分析のお話し等、興味深いものでした。(Y.S.)

▶「産みの苦しみ」とよく言われるが、諸先輩方のご尽力により、経済学部同窓会の発足から2年が経過した。そして今度は「持続の苦しみ」が待ち受けているかもしれない。この会報もしかりである。これからは、青山学院を想う熱意が、持続の苦しみを「楽しみ」に変えていくのだろう。そんなことをこの会報で伝えられたらと思う。(M.H.)

▶普段、何かとお任せしてしまうことが多くて、大変申し訳なく存じます。お仕事をお持ちの経済学部卒の方はたくさんいらっしゃると思いますが、ほんの少しでも良いので、経済学部同窓会発展のためにご賛同、お手伝い下さい。(K.A.)

▶近い将来、会員の皆様からの寄稿により、それが紙面の3分の1ぐらいを占めるようになって欲しいと願っております。どしどしご意見を頂きたいと思っております。(T.N.)

▶この同窓会誌が、各界で活躍されている経済学部OB・OGの皆様の活発な情報交換の場所となることを心から念じております。積極的なご意見を是非お寄せ下さい。(N.I.)

▶美添泰人経済学部長にはお忙しい中、3月の幹事会でご講演頂き、また会報へのご挨拶文の御寄稿をお願いしたところ快くお引受け頂きました。感謝申し上げます。皆様からのご

投稿も歓迎します。熊谷教授の講演要旨は花岡編集員が担当しました。AONサロンは都合で休みました。(M.K.)

▶第3号編集長、門川光雄(経35)。編集員、西尾隆司(商37)、清水美子(経39)、石井信之(経41)、相川和宏(商44)、松原優子(経46)、本郷茂(経47)、梅田澄子(経48)、磯部守孝(経53)、相原一浩(経58)、花岡雅夫(経H7)。

青山学院大学経済学部同窓会会報 第3号

2001年5月15日発行

発行者 榎本 弘

発行所 青山学院大学経済学部同窓会  
(青山学院大学経済学部・石井信之研究室)

〒150-8366東京都渋谷区渋谷4-4-25

Tel.03-3409-8111(内線12817)

皆様からの情報やご投稿は下記私書箱へ!

〒150-8691渋谷郵便局 私書箱145号